

# 高校生の作文執筆方法が文体に与える影響 —メタ・ディスコースによる文体分析—

福王寺 菜々子\*・片 桐 史 裕\*\*

(令和6年9月30日受付；令和6年10月23日受理)

## 要 旨

手書きでの書字活動が文体に与える影響について、メタ・ディスコースの比較・分類により分析し、記述方法による文体への影響の違いを明らかにすることを目的として、作文（手書きとデジタル入力）の文体比較を行った。高校生を対象に手書きとデジタル入力（キーボード・フリック入力）で作文を書かせ、文章中のメタ・ディスコースの記述を分類し比較した結果、メタ・ディスコースの総数には有意な差があるとはいえなかった。しかし、出現する言葉に着目すると特徴が現れ、デジタル入力を行うことで話し言葉に近い記述になることや、文章を大袈裟に書く傾向があることが示唆された。

## KEY WORDS

Meta-discourse メタ・ディスコース, Handwritten 手書き, Digital input デジタル入力, Stylistic comparison  
文体比較

## 1 問題の所在

1995年、Windows95の発売によりパソコンとともにインターネットが急激に普及した。岡部（2009）<sup>(1)</sup>はパソコンの世帯普及率について、1990年に12%を超えて普及が上昇し、1995年から1997年にかけて17%～25%強と急激に普及が伸びていると述べている。また総務省（2019）<sup>(2)</sup>はインターネット利用率の推移において、人口利用状況が1997年には9.2%であるが、急激に普及が進み、2001年には46.3%となり、人口の半数近くがインターネットを利用するようになったことを示した。

総務省（2021）<sup>(3)</sup>によると、2020年までの情報通信機器の世帯保有率が、携帯電話やスマートフォンなどのモバイル端末では、9割を超えた。その中でも、スマートフォンの普及が進んでおり、8割以上の世帯で保有している。これらのことから、Windows95の発売以降、日本のデジタル化が進んでいることが分かる。

小中学校ではGIGAスクール構想が実現しつつある。文部科学省（2023）<sup>(4)</sup>によると義務教育段階における1人1台端末の整備状況は、令和4年度末で全自治体のうち1810自治体等（99.9%）が完了予定となっており、現在の義務教育段階における「1人1台端末」の整備はほとんど完了している。文部科学省（2020）<sup>(5)</sup>は、ICTの「学び」への活用例として、検索サイトを活用した調べ学習、一斉授業の場面での活用、文章作成ソフト・プレゼンテーションソフトウェアの利用、一人一人の学習状況に応じた個別学習を挙げている。さらに、国語科においては文章作成ソフトで文章を書き、コメント機能等を用いて助言し合うという例を挙げている。このことから、調べ学習等に端末を使用するだけでなく、文章を作成する際の利用も増えていくことが予測される。

以前まで、学校現場において、児童生徒が学習課題として文章を書く際は、紙に手書きで行うのが一般的であった。しかし、大学での課題がほとんどデジタル化していること、そして義務教育段階における1人1台端末の整備により、今後はさらに情報端末を用いた学習が展開されることが予測される。また、文章作成ソフトを用いた学習の増加により手書きを行う機会が減少することが考えられる。しかし、学校現場で手書きが減少すると、これまで手書きによって獲得していた効果を得られなくなる。

ここまで、日本でのデジタル機器の普及、それに伴うGIGAスクール構想の実現による学校現場での手書きの機会の減少について述べた。学校現場で手書きが減少すると、これまで手書きによって獲得していた効果を得られなくなってしまう。そこで、手書きによって得られる効果とはどのようなものなのか。受け手側の効果、書き手側が得られる効果について、先行研究を概観・検討する。

\*見附市立見附小学校 \*\*学校教育学系

## 2 手書きの効果

### 2. 1 受け手側の効果

手書きの効果を調べると、「気持ち伝わる」「その人らしさが出る」という内容の文献が多く見られる。このことから、相手に伝えるという面で効果があることが考えられる。北山 (2010)<sup>(6)</sup>は手書きの文字にはその人なりの個性やクセ、感情が現れるとし、活字は画一的であると述べている。また、手書きのよさは、それらを書いた「人となり」やあたたかみが感じられると述べている。

押木 (2010)<sup>(7)</sup>は「音声言語のコミュニケーションにおいては、狭義の言語内容の伝達に伴い、声の高さや速さ、声の調子、リズムなどの要素から伝わるものがある。それは文字言語のコミュニケーションにおいても程度の差こそあれ、同様の要素があることが予測される」とし、これらの要素を手書き文字のパラランゲージ的要素と表現している。パラランゲージとは音声言語に関わるものとして研究されているものであり、押木 (2010)<sup>(8)</sup>はパラランゲージの解釈として、以下の現代言語学辞典の説明を用いている。

「paralinguistic (パラ言語学)」の項目における「パラ言語 (paralanguage)」

人が情報を伝達しようとする時、その言語行動 (LANGUAGE BEHAVIOR) に伴って起こる非言語行為をパラ言語 (paralanguage) と呼び、それを研究する分野をパラ言語学という。周辺言語学とも呼ばれる。一般に、韻律素性 (PROSODIC FEATURE) に含まれない声の質 (かすれ声、キーキー声など)、高さ (頭声・胸声など)、音量 (大声・小声など)、話し方 (流れるような、途切れがちの) などの声の調子 (tone of voice) が扱われる。

つまり、パラランゲージ的要素とは、話し手が聞き手に与える言語情報のうち、内容面以外の周辺の側面のことである。この周辺の側面が手書き文字にもあることが予測される。

また、白岩 (2016)<sup>(9)</sup>によると、「誕生日のメッセージカード」「親しい人への年賀状」「参考書を借りた際のお礼メモ」を書く場面で手書きしたもの、プリントアウトしたもの、どちらが好ましいかという問いに対し、書字をする場合も受け取る場合も、手書きの方が好ましいと考える回答が9割を超える結果となった。このことから、手書き文字のパラランゲージ的要素に良さを感じる人が多いことが分かる。

### 2. 2 書き手側の効果

佐々木 (1987)<sup>(10)</sup>は、「空書の認知的機能」について取り上げている。空書とは書字動作として現れるからだの動きである。空書は漢字学習の結果獲得された動作であると考えられ、7歳児から12歳児まで各70名前後の小学生に、漢字イメージの統合課題を提示して、空書の現れを観察すると、7、8歳の児童はほとんど空書せず、9歳でも空書は約2割の者に見られるにとどまるが、学習する漢字の量が600字を越える10歳になると、空書は過半数を越える児童に動作としてその姿を現すと述べている。

さらに、我々と共に漢字文化圏の一部を形成する、中国語を母語とするもの23名 (台湾からの留学生) に漢字課題を与え空書の出現を観察すると、中国人の全員が空書をするという結果になった。そして、中国人は、強く空書に依存しており、空書許可条件と空書禁止条件の正答漢字率の差は日本人よりも大きくひらいた。佐々木 (1987)<sup>(11)</sup>は、「文字に限らず平面に描かれた視覚的な表現を理解するためにも、対象の触覚的性質、なぞれる性質は重要な役割を果たしている」と述べている。したがって、漢字を思い出そうとするような想起が必要な場面や、平面に描かれた視覚的な表現の理解には、なぞるという動作が重要であることが分かる。

また、池田 (2011)<sup>(12)</sup>は、視写の効果について述べており、要約すると以下の3点となる。

- 1) 視写においては、筆記用具を用いてマス目のある原稿用紙に字を書いていく。その際、筆記用具と原稿用紙との間に摩擦が生じる。(以下筆触と記す) 筆触により一字一字が意識される。例えば、「章」と「賞」では、筆触が違う。この筆触の違いに支えられて、「章」と「賞」との違いが意識される。
- 2) 視写する者は、この「章」と「賞」とを単なる字の違いとして意識しない。視写するものは、例えば「受章」と「受賞」という、それぞれの字を含んで成り立つ語の違いを意識する。これらの語の意味の違いを意識する。そして、それぞれの語がどんな文に使われているか、なぜ使い分けられているのかを意識する。
- 3) 具体的な一字の違いにおいて、語、文、文脈の違いを見分けようとする意識が働く。

池田（2011）では、手書き時、文字への認識に影響があるとしているが、作成する文章の文体に関しては言及していない。

### 2. 3 計量文献学

次に文章を出力する際の、手書きにおける文体について見ていく。文体分析の手法として計量文献学が知られている。土山（2015）<sup>(13)</sup>は計量文献学について、「著者の文体に関わる習慣的特徴を統計的に解析することを通じて、著者の識別、文献の成立年代、あるいは成立の順序を推定する学問分野である。」と述べており、その内容として、語の長さや語の頻度、文の長さを挙げている。渡邊（2022）<sup>(14)</sup>は、坂口安吾の計量文体分析において漢字比率、平均文長を用いて、文体の平易化を明らかにしている。

前述の土山（2015）は、計量文献学では語の意味や記述内容は考慮されず、それらは研究の対象とはならないと述べている。よって、計量文献学の手法は本研究の「手書きの文体調査」では使えないことになる。

### 2. 4 メタ・ディスコース

荒木ら（2000）<sup>(15)</sup>はメタ・ディスコースを「自分はこの文章をこういう気持ちで書いていて、こんな風に読んでほしいのだ」というものと定義している。そして、「書き手がいま書いている内容について書くことを『メタ・ディスコース』と呼ぶ。メタ・ディスコースが多くなると、文章は長くなり、わかりにくくなる。」と述べている。

また、小島（2017）<sup>(16)</sup>はHyland.Kのメタ・ディスコースのカテゴリーを日本語訳し、それを基にアカデミック・ライティングにおけるメタ・ディスコースの頻度や多様性について分析を行っている。

このように、メタ・ディスコースは文章の冗長さについて客観的に判断できるものであり、本研究ではメタ・ディスコース出現数により手書きが文体に与える影響を分析することとする。

## 3 研究の目的

手書きでの作文とデジタル入力での作文中のメタ・ディスコースを比較分類し、記述方法による文体への影響の違いを明らかにする。

## 4 研究方法

### 4. 1 調査時期

授業実践：令和5年10月上旬

### 4. 2 調査対象

新潟県公立高等学校1年生94名

### 4. 3 調査方法

#### 4. 3. 1 授業実践

単元の計画を表1に示す。

表1 単元計画

時間	内容
1	《手書きでの作文》 作文課題：高校入試に向けてどのように勉強をしたか。また勉強したことを今後どう生かすか。 ※書き方の指定なし
2	《デジタル入力での作文》 作文課題：高校に入学してから何を学んだか。また、学んだことを今後どう生かすか。 ※各自のタブレットを使用し、Googleドキュメントに記入 ※書き方の指定なし
3	《作文中のメタ・ディスコースを見つける》 メタ・ディスコースについて知り、作文中にあるメタ・ディスコースに色付けを行う。手書きでの作文は各自で、デジタル入力での作文はペアの作文のメタ・ディスコースの色付けを行う。

手書きとデジタル入力で作文を書かせ、文章中のメタ・ディスコースの記述を分類し比較する。手書きが文体に与える影響を明らかにするため、比較対象として文章作成ソフトを用いてキーボード入力、またはフリック入力で記述させた作文を用いた。

#### 4. 3. 2 分析方法

メタ・ディスコースは研究者によって定義、分類が異なる。そのためアカデミック・ライティングを対象とした小島（2017）<sup>(16)</sup>（表2）と小中高生の作文表現を対象とした荒木ら（2000）<sup>(15)</sup>（表3）のメタ・ディスコースの分類を、著者が統合・整理したもの（表4）を用いることとした。

表2 小島（2017）のメタ・ディスコース分類

カテゴリー	機能	例
Interactive metadiscourse	読み手のテキスト理解を助け、解釈を導く	
(a) 連結 (Transitions)	段落間、センテンス間、節・句間の論理関係を示す	In addition/but/thn/and また/しかし/そこで
(b) 文構造 (Frame markers)	テキストの内部構造を示す	Finally/to conclude/my purpose is 最後に/結論として/目的は
(c) 内部照応 (Endophoric markers)	情報がテキスト内のどこにあるか示す	Noted above/in section 以下のように/以上のように
(d) 引用 (Evidentials)	引用を示す	according to X/Z states Xによると/～という
(e) 例示・言い換え (Code glosses)	例示や言い換えを示す	Namely/e.g./such as/ in other words すなわち/たとえば/など/つまり
Interactional metadiscourse	テキストにおける読み手と書き手の顕在化	
(f) 譲歩 (Hedges)	語調をやわらげる	Might/perhaps/possible/about かもしれない/おそらく/と考えられる/約
(g) 強調 (Boosters)	評価等を強調する	In fact/definitely/ It is clear that 実際/間違いなく/それは明らか
(h) 評価・態度 (Attitude markers)	書き手の評価や感情を示す	Unfortunately/I agree/Surprisingly 残念ながら/同意します/驚くべきことに
(i) 一人称 (Self mentions)	書き手自身に言及する	I/we/my/me/our 私は/わたしたちは/私の/私を/わたしたちの
(j) 関与 (Engagement marker)	語り手を談話の一部として関与させたりする	Consider/note/you can see that 検討してください/メモしてください/それがわかります

表3 荒木ら（2000）のメタ・ディスコース（記述にもとづき筆者が表を作成）

カテゴリー	機能	例
	(a) これから書く内容を読者に伝える	私がこの記事で書くように編集者から指示されたテーマは、情報教育であった
	(b) 内容を読者に強調したいということを伝える	ここで私が主張したい最も重要なことは、私は指摘したい、これが私の考えの出発点である
	(c) 自分が観察した範囲内という限定で、事実の限定をする	私が見るところでは
	(d) 作者の感情を読者に感じてほしいことを伝える	悲惨なほど

表4 本研究で用いるメタ・ディスコース分類

カテゴリー	機能	例
文構造 (表2 (b) 表3 (a))	テキストの内部構造を示す/これから書く内容を読者に伝える	～について述べる, 私がこの記事で書くように編集者から指示されたテーマは, 情報教育であった
譲歩・婉曲 (表2 (f) 表3 (c))	語調をやわらげる/自分が観察した範囲内という限定で, 事実の限定をする	～と考えられる, ～という, 私が見るところでは
評価・態度 (表2 (h) 表3 (b))	書き手の評価や感情を示す/内容を読者に強調したいということを伝える	注目するのは, 重要になる, ここで私が主張したい最も重要なことは, 私は指摘したい, これが私の考えの出発点である

表4のカテゴリーについて説明する。「文構造」は表2「(b)文構造」と表3「(a)これから書く内容を読者に伝える」を統合したものである。表2「(b)文構造」の項目は, 研究目的の提示や節内容の予告などである。それと表3「(a)これから書く内容を読者に伝える」(私がこの記事で書くように編集者から指示されたテーマは, 情報教育であった) はどちらもこれから書く内容について述べる記述のため, 統合し「文構造」というカテゴリーにまとめた。「譲歩・婉曲」は表2「(f)譲歩」と表3「(c)自分が観察した範囲内という限定で, 事実の限定をする」を統合したものである。表2「(f)譲歩」(と考えられる, おそらく)と表3「(c)自分が観察した範囲内という限定で, 事実の限定をする」(私が見るところでは) はどちらも内容をはっきりと言い切らない, 遠回しな表現のため, 統合し「譲歩・婉曲」というカテゴリーにまとめた。「評価・態度」は表2「(h)評価・態度」と表3「(b)内容を読者に強調したいということを伝える」を統合したものである。表2「(h)評価・態度」(驚くべきことに)と表3「(b)内容を読者に強調したいということを伝える」(ここで私が主張したい最も重要なことは) はどちらも筆者の記述内容に対する評価・態度を示すものであるため, 「評価・態度」というカテゴリーにまとめた。

#### 4. 4 結果と考察

##### 4. 4. 1 メタ・ディスコース出現割合

表5に手書き作文中のメタ・ディスコースとデジタル入力(キーボード入力・フリック入力)作文中のメタ・ディスコースについて, 表4のメタ・ディスコース分類に従って分析した結果を示す。

なお, 本節では, 手書きでの作文とデジタル入力での作文, どちらも提出した生徒94名のみを分析の対象としている。また, 生徒間, 入力方法によって作文の文字数に差が生じており, その影響を補正するために, メタ・ディスコース出現割合(以下, MD指数)を作成し, メタ・ディスコースの出現率を集計している。MD指数は, 文章100字あたりのメタ・ディスコース数と定義した。式は以下の通りである。

$$\text{MD指数} = \text{メタ・ディスコースの数} / \text{作文の総文字数} \times 100$$

表5 MD指数による文章100字あたりのメタ・ディスコース数

	手書き	デジタル入力
MD指数合計	402.96	384.34
MD指数平均	4.29	4.09

全体では, 各人のMD指数をもとに, 対応のある2標本t検定(両側)を行ったところ,

$$t(93) = 1.40, p = .164$$

となり, 2つの群には有意な差があるとはいえない結果となった。つまり, 作文の記述方法の違いによるメタ・ディスコースの出現数に差は出なかった。

##### 4. 4. 2 出現語ごとの分析

メタ・ディスコースを出現語ごとに集計すると, 手書きでMD指数が高い表現, デジタル入力でMD指数が高い表現があることが明らかとなった。ここでは, 出現数が少ないと正確な指数比が出ないと考え, 出現数が合計50以上,

指数比が2倍以上、0.5以下のものを検討する。なお、出現数を50以上としたのは、指数比に差があり、かつ出現数が確保できた言葉のうち、最も出現数が少ないものが50であったことにもとづく。指数比とは、デジタル入力でのMD指数が手書きのMD指数の何倍あるかを表したものである。式は以下の通りである。

$$\text{指数比} = \text{デジタル入力でのMD指数} / \text{手書きでのMD指数}$$

デジタル入力では、「な」、「たくさん」、「たり」、「感じた」のMD指数が高くなっており、出現が多い。(表6) 一方手書きでは、「少し」、「くらい」のMD指数が高くなっており、出現が多い。(表7)

表6 MD指数比が2以上のメタ・ディスコース

語	カテゴリー	手書き	MD指数	デジタル入力	MD指数	指数比
な	(評価・態度)	28	0.056	56	0.113	2.00
たくさん	(評価・態度)	26	0.052	54	0.109	2.08
たり	(譲歩・婉曲)	21	0.042	45	0.091	2.14
感(じた)	(譲歩・婉曲)	12	0.024	55	0.111	4.58

表7 指数比が0.5以下のメタ・ディスコース

語	カテゴリー	手書き	MD指数	デジタル入力	MD指数	指数比
少し	(譲歩・婉曲)	54	0.109	24	0.109	0.44
くらい	(譲歩・婉曲)	40	0.081	11	0.222	0.27

しかし、「たくさん」「感じた」「少し」「くらい」の指数比には、作文課題が影響していると考えられる。作文課題を表8に示す。

表8 作文課題の内容

《手書きでの作文》 作文課題：高校入試に向けてどのように勉強をしましたか。また、勉強したことを今後どう生かせるか書いてください。(600字程度)
《デジタル入力での作文》 作文課題：高校に入学してからどのようなことを学びましたか。また、学んだことを今後どのように生かすか書いてください。(600字程度)

「たくさん」「感じた」はデジタルの作文で指数が高かった。その要因として、「たくさん」に関しては、高校に入学して新たに学んだこと、知ったこと、感じたことが多かったため、「たくさん」の記述が多くなったことが考えられる。後に述べるが、手書きの作文内容は、自身の受験勉強に関することのため、遠慮して「たくさん勉強した」等の内容が書きにくい作文課題だったことが考えられる。そのため、デジタル入力での作文における「たくさん」のMD指数の高さは、作文課題の影響と考えられる。

デジタル入力で「たくさん」の記述があった文章の一部を表9に示す。

表9 デジタル入力で「たくさん」が記述されている文章

<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校に入学して、初めて出会う教科がたくさんありました。</li> <li>・自分で思ってたよりもずっと自己責任で取り組むことが多く、来たばかりの頃はわからないことや慣れないことが<u>たくさん</u>ありました。</li> <li>・このように、中学校では味わうことの出来なかった事から<u>たくさん</u>のことを学びました。</li> <li>・高校になってから初めて学ぶことが<u>たくさん</u>ありました。</li> </ul>
---

「感じた」に関しては、高校に入学して感じたことを記述する場面が多かったことが考えられる。手書きでの作文(作文課題：高校入試に向けてどのように勉強をしましたか。また、勉強したことを今後どう生かせるか書いてくだ

さい。)では、自身の受験勉強の事実を記述する形式だったため、「感じた」ことの記述はデジタル入力の作文と比較して出現しなかったと考えられる。よってデジタル入力での作文における「感じた」のMD指数の高さは、手書きとデジタル入力の差というよりも、作文課題の影響によるものである。

デジタル入力で「感じた」の記述があった文章の一部を表10に示す。

表10 デジタル入力で「感(じ)た」が記述されている文章

<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎時間きちんと集中して聞かなければいけないので、とても大変だと感じました。</li> <li>・簿記が特別難しいだけで他の二つは簡単と言うわけではなく、ビジネス基礎や情報も覚えることがとても多く、どちらも赤点ストレスなので中学との難しさの違いを感じました。</li> <li>・中学生の時よりも自分の言動に責任を持つという場面が多くなったと感じました。</li> </ul>
---

「少し」「くらい」は手書き作文においてMD指数が高かった。その要因として、「少し」に関しては、自らの高校時代の勉強に関して記述するものだったことが考えられる。勉強量、勉強内容、自身の成果、当時の気持ちに関して、遠慮して「少し」と記述したと推察される。手書きでの作文で「少し」と記述されていた文章を表11に示す。

表11 手書きで「少し」が記述されている文章

勉強量	<ul style="list-style-type: none"> <li>・努力をおこたらずに毎日<u>少しずつ</u>でも取り組むことは難しいことでしたが、</li> <li>・モチベーションを上げて少しでも多く勉強するようにしました。</li> <li>・今もテスト前に<u>少し</u>勉強するようになったけれど</li> </ul>
勉強内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・過去問は問題集と違って<u>少し</u>難しかったけれど間違えた問題はしっかりと解説を読み解き直しをしました。勉強の合間に<u>少し</u>休けいをはさんでいたことです。</li> <li>・どんな形のテストなのか<u>少し</u>でも知っておいた方が有利になるかなと思ったからです。</li> <li>・少しずつ繰り返していくことで解ける問題が増えたので良かったです。</li> <li>・<u>少し</u>簡単な問題だけを頑張りました。</li> </ul>
自身の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・過去問をやり続けることで、入試の問題に<u>少し</u>慣れて、本番でもあまり緊張することなく解けました。</li> <li>・いやでも<u>少し</u>頑張ってみて、毎日必ずペンを持つことを継続して、良い結果を出すことができました。</li> <li>・数学は<u>少し</u>ずつ点数が上がってきていましたが、</li> </ul>
当時の気持ち	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題が解けるたびに達成感を感じられて<u>少し</u>だけ楽しかったです。</li> <li>・<u>少し</u>でもやる気を上げて、楽しいと思えるように工夫しました。</li> <li>・今年でそうな部分などピックアップしてできたので<u>少し</u>余ゆうをもって過ごせました。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・倍率も<u>少し</u>高く、当日にはテストも思うように解くことができず、勉強しなかったことを後悔しました。</li> <li>・周りの人も行事が終わると、<u>少し</u>前までの楽しい雰囲気と打って変わり、受験を意識しだすようになりました。</li> </ul>

「くらい」に関しては、自身の勉強時間や期間、内容等を記述する場面が多かったことが考えられる。また「少し」と同様、自身の勉強量や勉強時間に対して遠慮して「くらい」と記述したことが推察される。手書きでの作文で「くらい」と記述されていた文章を表12に示す。

表12 手書きで「くらい」が記述されている文章

勉強時間等を表す「くらい」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最後の模試を受けたあと<u>くらい</u>から、やっと一日二時間くらい勉強しました。</li> <li>・だいたい10月の下旬<u>くらい</u>から受験勉強を本格的にスタートしました</li> <li>・新研究というワークを3回<u>くらい</u>しました。</li> </ul>
遠慮が含まれる「くらい」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一日三十分もしていない<u>くらい</u>でした。</li> <li>・学校や塾からの課題の答えを写す<u>くらい</u>でした。</li> <li>・後は、学校の宿題をしてた<u>くらい</u>です。</li> <li>・受験一週間前になっても多少勉強してる<u>くらい</u>で勉強をやっていた時間よりもゲームをやっていた時間のほうが長かったです。</li> </ul>

「たくさん」「感じた」「少し」「くらい」の指数比には、作文課題の影響があったが、「な」「たり」は作文課題に

よる影響はないにも関わらず、デジタル入力でのMD指数が高くなった言葉であると言える。

「な」は、手書き作文、デジタル入力の作文どちらにおいても、思ったこと・感じたことに付ける表現が見られた。よって「な」の出現には作文課題による影響はないと考えられる。(表13)

「たり」は、手書き作文、デジタルでの作文どちらにおいても、複数の事象が無い場面での使用が見られた。よって「たり」の出現には作文課題による影響はないと考えられる。(表14)

さらに、デジタル入力では「とても」のMD指数が高くなる傾向が見られた。(表15)

表13 「な」が記述されている文章

《手書きでの作文》
・頑張ってよかったなとあらためて思いました。
・沢山ある過去問を見ていて、県が出す問題はどれも似ているなと思いました。
・中学の時に勉強がんばっていて良かったなと思っています。
・今思うとけっこうなストレスだったなと思えます。
《デジタル入力での作文》
・改めて生活の流れが変わったなと感じました。
・できることから少しずつでも取り組んで行けたらいいなと思えます。
・新たにリーダーとしてこんなやり方もあるんだなと学びました。
・大事な時期にたくさん頑張るのはとても大切なんだなと実感することができました。

表14 「たり」が記述されている文章

《手書きでの作文》
・家に帰ってすぐに勉強をせずスマホをかまっていたりしました。
・受験が近くなると、過去問をひたすら解いたりしていました。
・受験の二ヶ月前くらいになると、今までやったテストやもしをときなおしたりしました。
《デジタル入力での作文》
・私は苦手な教科も少しでもいいから必ず毎日手をつけたりするように心がけるようにしています。
・様々な職業の方々のお話を聞いたりする場面もあり、自分のなりたい将来のために大学や専門学校にいくための勉強は大切だとわかりました。
・さらに商業科目も追加されたりして教科数が中学校の時よりもとても増えて大変になっています。

表15 「とても」のMD指数及び指数比

語	カテゴリー	手書き	MD指数	デジタル入力	MD指数	指数比
とても	(評価・態度)	36	0.073	70	0.141	1.94

よってデジタル入力の作文には「たり」や「とても」が多用されており、「～たりする」というように列挙する項目が複数個無いにも関わらず「それだけではない」というニュアンスを含ませたり、「とても～」というように状態や程度を強調する部分が多くなることから、文章を大袈裟に書く傾向があると考えられる。一方手書きでは、作文課題の影響はあるものの、「少し」「くらい」のMD指数が高くなっていた。よって手書きでの作文は、遠慮のニュアンスを含む傾向にあると推察される。

## 5 結論

MD指数の比較結果として、全体では手書きとデジタル入力でMD指数に有意な差はあるとはいえなかったが、出現する言葉に特徴が現れたりすることがわかった。

デジタル入力において「な」のMD指数が高いことから、デジタル入力で文章を記述する際に、話し言葉に近い記述になることが推察される。

さらに、デジタル入力の作文には「たり」や「とても」が多用されており、「～たりする」というように複数無いにも関わらず「それだけではない」というニュアンスを含ませたり、「とても～」というように状態や程度を強調す

る部分が多くなることから、文章を大袈裟に書く傾向があると考えられる。一方手書きでは、作文課題の影響はあるものの、「少し」「くらい」のMD指数が高くなっていた。よって手書きでの作文は、遠慮のニュアンスを含む傾向があると推察される。

## 6 今後の課題

手書きはデジタル入力（キーボード・フリック入力）と比較して、手書きの方が文章を出力する際の負担が大きい分、文章が冗長になりにくくなるという仮説を立て調査を行ったが、全体ではMD指数に有意な差があるとは言えない結果となった。しかし、保護者アンケートにおいて、手書きとデジタル入力では、学校に対する批判的な表現が多くなる傾向があるという現職教員からの感想もある。これは上記結論の「手書きでの作文は、遠慮のニュアンスを含む傾向があると推察される」に通じるところがあるため、高校国語科授業での作文だけではなく、他の文章も調査対象にする必要がある。よってメタ・ディスコース以外の文体分析の方法を今後見つけなければならない。

## 引用文献

- (1) 岡部勇太：「日本社会における生活者の情報メディアとしてのパソコン利用の歴史的推移—市場主義社会における生活者のニーズの反映を視点にして—」、『白山社会学研究』、第16号、白山社会学会、p.91、2009.
- (2) 総務省：「第1部特集 進化するデジタル経済とその先にあるSociety5.0」、2019,  
<https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/r01/html/nd1111120.html>, (2023.10.30閲覧).
- (3) 総務省：「第1部特集 デジタルで支える暮らしと経済」、2021,  
<https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/r03/html/nd1111100.html>, (2023.10.30閲覧).
- (4) 文部科学省：「義務教育における1人1台端末の整備状況（令和4年度末時点）」、p.2、2023,  
[https://www.mext.go.jp/content/20230711-mxt\\_shuukyo01-000009827\\_01.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20230711-mxt_shuukyo01-000009827_01.pdf), (2023.10.30閲覧).
- (5) 文部科学省：「(リーフレット) GIGAスクール構想の実現へ」、p.5、2020,  
[https://www.mext.go.jp/content/20200625-mxt\\_syoto01-000003278\\_1.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20200625-mxt_syoto01-000003278_1.pdf), (2023.10.30閲覧).
- (6) 北山節子：『報連相は手書きにしろ』、東洋新聞新報社、p.6、2010.
- (7) 押木秀樹：「手書き文書におけるパラランゲージ的要素による伝達に関する基礎的研究」、『書写書道教育研究』24号、全国大学書写書道教育学会、pp.21-22、2010.
- (8) 前掲(7)、p.22.
- (9) 白岩ゆき・菅野陽太郎・押木秀樹：「手書き文字におけるパラ言語的機能としての規範性と個性等について—うれしさを感ぜさせる要素からの検討—」、『書写書道教育研究』、第30号、全国大学書写書道教育学会、pp.21-31、2016.
- (10) 佐々木正人：『からだ：認識の原点』、東京大学出版会、pp.91-94、1987.
- (11) 前掲(10)、pp.30-33.
- (12) 池田久美子：『視写の教育—〈からだ〉に読み書きさせる』、東信堂、p.50、2011.
- (13) 土山玄：「文学作品の計量分析：その方法と歴史」、『情報処理学会研究報告』、情報処理学会、第2015-CH-107巻7号、p.1、2015.
- (14) 渡邊幸佑：「坂口安吾の計量文体分析」、『情報の科学と技術』、第72巻、情報科学技術協会、pp.435-438、2022.
- (15) 荒木昌子・向後千春・筒井洋一：『自己表現力の教室』、情報センター出版局、p.153、2000.
- (16) 小島ますみ：「ディベートやアカデミック・ライティング指導をととしたメタディスコース指導効果の検証」、『中部地区英語教育学会紀要』第46号、中部地区英語教育学会、p.294、2017.

# The Influence of High School Students' Writing Methods on Writing Style

## — Stylistic Analysis Based on Meta-Discourse —

Nanako FUKUOJI\* · Fumihiro KATAGIRI\*\*

### ABSTRACT

I made a stylistic comparison between handwritten and digitally input texts. The objective was to identify differences in the effects of writing style on writing style. The criterion for stylistic comparison is the percentage of meta-discourse. The results of a comparison of two types of sentences written by high school students showed no significant difference in the percentage of meta-discourse occurrence. However, analysis of the words that appeared suggested that the digitally input texts were more like spoken descriptions and exaggerated expressions.

---

\* Mitsuke Elementary School    \*\* School Education